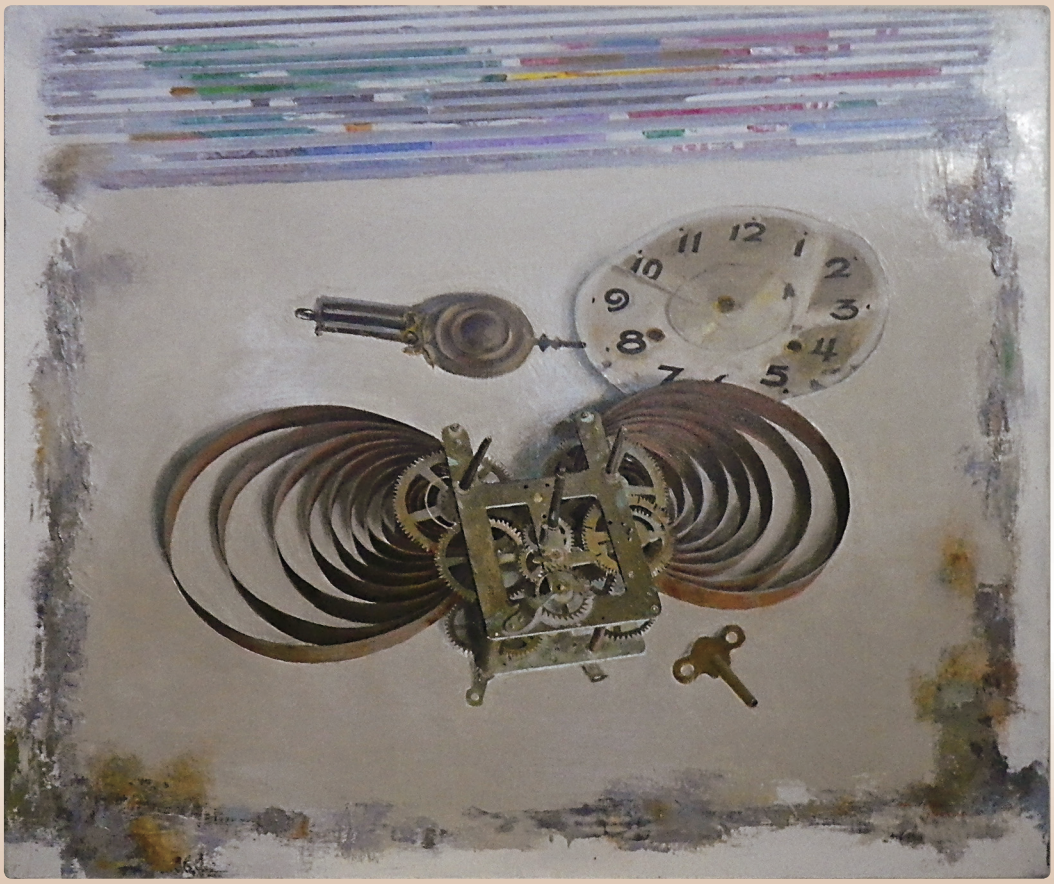
上州文化

contents

巻頭言／塚越応鐘 ②
特集 ぐんまミュージアム散歩／桑原高良 ③
上野東歌探訪／北川和秀 ⑥
群馬県教育文化事業団 INFORMATION ⑩
地域文化をつなぐ／長谷川　誠 ⑪
ART NOW　アートの役割／坂本　敏 ⑫
自然環境調査からみた群馬の湿原と植物　茂林寺沼湿原／片野光一 ⑭



「メモリー」 岩崎 義治

公益財団法人 群馬県教育文化事業団 2013 No.135

巻頭言

カンボジアに魅せられて

群馬県華道協会会長代行　塚越応鐘

カンボジアの日本語ガイド、ソティからメールで数枚の写真が届いた。先日彼の仲介で井戸を贈った村へ衣類他の支援物資を届けたとの報告と写真だった。地区長を中心に村人の輪が出来、説明のあと大量に送られた衣類が整然と配られている様子が見てとれる。昨年彼の依頼を受け、井戸の寄付を募り二十一個を贈ることが出来た。先月、私たちは数人で現地に出向き、それらの井戸の様子を確認し、多くの村人に感迎を受けたのだった。実はその時支援物資も持参していたのだが丁度、あちらは国会議員の選挙中、「これは賄賂と間違われるので配ることはできない」と言われ、後日届けてくれるてはずになっていたのだった。蛇口をひねって直接飲める水のある国に育った我々には考えられない水事情である。歯を磨いたらうがいをするのはミネラルウオーター、うっかり怠ると免疫の無い初めての観光客は殆どが苦しむことになる。川の水、あるいは水たまりの水が生活水である田舎の人たちにとって井戸はもっとも喜ばれる贈り物だ。一つの手押しポンプで五十人が助かると聞く。五年のメンテナンスがついて二万円で出来ると知り、多くの人達の協力を得た。これまでに贈った井戸の数は七十を超える。その仲介をしたのがガイドのソティ。彼は他に小学校の建設、孤児院の立ち上げにも尽力するなど、信頼のおける人物なのだ。これは今年四月に行われた彼の挙式のために私も含め日本から十二人もの人たちが出席していたことが物語っている。総勢七百人の結婚式には驚かされた。

私がアンコールワットのある都市シェムリアップに通い始めて十五年目になるが五年が過ぎたころ、あまりにも急激な発展ぶりに将来を危惧したものだが、予想した通りの展開である。道路は舗装され、新しい道が縦横に走り、高嶺の花だった車はあふれ渋滞する。当時珍しかったプール付きのホテルも林立し、今やリゾート地の感すらある。一方ほんのちょっと郊外にでれば未だ飲む水にも困っている村もあり、貧富の差は想像以上に大きいと言える。

今回井戸を贈ることが出来た村は米作中心の人口も多い大きな集落だった。衣類が争うことなく整然と配られている様子を見て、東日本震災で被災者の姿が世界中に配信され、日本人の譲り合いの精神が話題になったことが記憶にあるが、彼らもそれに匹敵するようだ。この人たちが私は好き、何度もカンボジアに足を運ぶ基にはきっとこの感情にあるのだ。私のカンボジア通いはまだ当分続くことだろう。

ぐんま ミュージアム散歩

「現代」と「伝統」に自然の中で出合う空間

⑦「ハラ ミュージアム アーク」

桑原高良

榛名山麓、名湯伊香保温泉近く、豊かな自然の中に、国内外の斬新な現代美術作品から貴重な東洋古美術品を展示するユニークな美術館「ハラ ミュージアム アーク」（原俊夫館長）がある。個人コレクションを核に、1988年の開館以来、４分の１世紀にわたって多くの美術ファンを魅了してきた同館の魅力を探った。

四季折々、自然がその美しい姿を見せる榛名山麓、その中に黒を基調とした特徴ある形の建物がある。建築家、磯崎新氏の設計によるハラ ミュージアム アークだ。

同館は、現代美術の専門館、原美術館（東京都品川区）の別館としてこの地に誕生。25年の歴史を刻んできた。この間、国内外の現代美術作品の展示、作家の紹介、ワークショップなどに積極的に取り組み、「難解で理解しにくい」とされた現代美術を身近なものとする努力を続ける一方、時代を担う多くの若者たちに刺激を与えてきた。

２００８年には、開館20年を記念し、再び磯崎氏の協力を得て大規模な増改築を行い、和風の特別展示室「観海庵（かんかいあん）」と開架式収蔵庫が新設された。これによって、現代美術作品と東洋古美術作品が、一施設の中で楽しめる現在の形が整った。

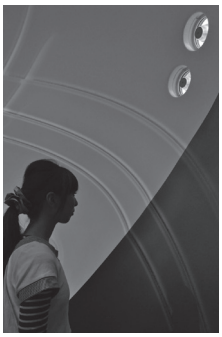
◇ 随所にアート作品

現代美術の館として開館した歴史を持つだけに、ハラ ミュージアム アークは、入館前から敷地内に設置された野外彫刻作品を楽しむことができる。

広大な芝生広場の一画には、ポップアーティスト、アンディ ウォーホルの巨大なスープ缶の作品が立っている。高さはおよそ3メートル、近寄ってみるとその大きさが実感できる。

美術館棟入り口正面に向かう導入路には赤のガラスでできたハート型のオブジェ「Kokoro」（ジャン＝ミシェル・オトニル）が設置され、入館者を出迎える。その先には、マジックミラーを使ったイ・ブルの立体作品が展示されている。

東側の広場には上部が球体のような形のパビリオン「Sunspace for Shibukawa」（オラファー エリアソン）が建てられている。内部に入ると、太陽の光がプリズムレンズを通してさまざまな虹を映し出す。天気次第では、予想外の世界が展開される。



観海庵（中央）とオラファー エリアソン作「Sunspace for Shibukawa」（右下の写真はパビリオン内部

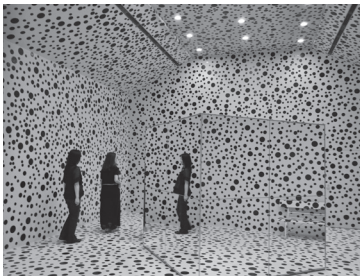
◇ 3室の現代美術ギャラリー

現代美術の魅力を紹介する展示ギャラリーはA・B・Cの3部屋。正方形で高い天井が特徴のギャラリーAを中心に、翼を左右に広げたようにB・C室が設置されている。ここでは、企画展やコレクション展示などが行われる。２０１３年夏の展示は、ポップアートを取り上げた。

このギャラリーで、人気なのが草間彌生の部屋（ミラー ルーム）。常設ではないが、「ここに来れば草間作品に出合える」と足を運ぶファンも多い。

◇ 古美術の世界

現代美術棟から渡り廊下のような通路を進む。ここか



草間彌生の部屋（ミラー ルーム）

観海庵の内部

らは周囲の芝生広場や山々も見渡せ、心が癒される。目的の観海庵は、その通路の先にある。5年前に設置された東洋古美術コレクション展示施設だ。そこでは原俊夫館長の曽祖父で実業家だった原六郎氏（1842～1933）の貴重なコレクションを見ることができる。施設名は、六郎氏の号「観海」にちなんでいるという。

書院造を意識した内部は、落ち着いた空間で、じっくりと鑑賞できる。展示によっては国宝や重要文化財にも出合える。

◇9月7日からコレクション展

同館の現代美術ギャラリー及び観海庵では、9月7日から新たなコレクション展が始まった。

ハラ ミュージアム アーク秋冬展覧会と位置づけられるのが原美術館コレクション展「あなたに似た人」。作家にとって身近で深いモチーフの「肖像画」にスポットを当て 創作者の内面やその時代などに迫る企画。展示されるのは人気の奈良美智作品をはじめ、やなぎみわ、米田知子、トレイシー エミンらの作品が予定されている。会期は2014年1月5日まで。

観海庵では、前期（10月9日まで）、後期（10月11日―11月20日）に分けて「原六郎コレクションの名品」展が開かれる。目玉は全期間展示される国宝「青磁下蕪花瓶（せいじしもかぶらかびん）」。青磁花瓶の白眉と注目される南宋時代の名品だけに、ぜひ見ておきたい。また、多くのファンを持つ円山応挙の「淀川両岸図巻」も見どころ。前期には狩野永徳の「虎図」、後期には浮世絵美人図の「縄暖簾図屏風」（重文）も展示されるという。

両展示とも、まさに、コレクションの力が発揮された企画となっている。

◇収蔵庫も有効活用

同館では、国内外の貴重なコレクションを収める開架式収蔵庫を希望者に対し開放している。毎週日曜日に行うガイドツアーと、学芸員や評論家、教育や研究機関の職員など美術の専門家、学生を対象に、予約制で作品閲覧・調査に応じている。収蔵庫とはいえ、作品展示も可能な広さを持ち、ギャラリーとしての雰囲気も感じさせる。

◇〝作家もの〟のグッズも

ザ・ミュージアムショップ

鑑賞後には、館内のザ・ミュージアムショップに立ち寄ってみたい。同館の醸し出す雰囲気をそのままに、品揃えも応対も感性が統一されたショップとなっている。

店内には、アーティストに関する書籍や作家自身によるオリジナル商品などが並び、そのレベルは高い。カップルで訪れ、グッズを選びあう姿も見られる。群馬関係では卯三郎こけし、刺繍のコサージュなども人気があるという。

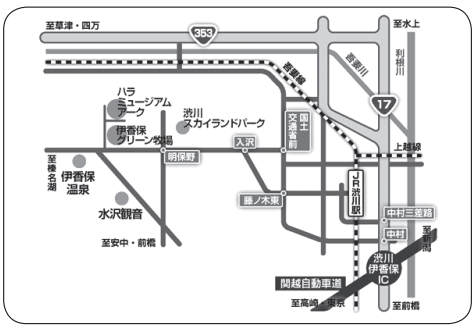
かぼちゃのイメージケーキ

広大な敷地の中に、しゃれたレストラン「カフェダール」がある。カレーやスパゲッティ、サンドイッチ、コーヒーなどが楽しめる。企画や出品作品をイメージしたオリジナルケーキも話題。自然の中に立つ美術館棟が眺められる窓際の席がおすすめだ。

◇隣接地にグリーン牧場

ハラ ミュージアム アーク隣接地に「自然、人、文化とのふれあい」をコンセプトにした伊香保グリーン牧場がある。美術館誕生の前から、この地で親しまれてきた施設。牛の乳しぼりや馬やポニーのライディング体験、シープドッグショー、いちご狩り、キャンプなどの体験を通じて、人間と自然の共存を楽しみながら学ぶことができる。近年では、エコを基調とした循環型牧場づくりを目指し多彩な取り組みを続けている。

同牧場を訪れた子供たちを対象にした「想い出絵画コンクール」も実施しており、毎回多くの作品が寄せられている。入賞作品選考や展示には、ハラ ミュージアムアークも事業企画協力している。



「ハラ ミュージアム アーク」

〒377-0027　渋川市金井2855－1
☎ 0279-24-6585　Fax 0279-24-0449
arc@haramuseum.or.jp
開館時間：午前9時30分～4時30分
（入館は午後4時まで）
休館日：休館日：木曜日（祝日と8月除く）、
展示替え期間、1月1日、冬期
入館料：大人（中学生以上）1000円
小人（3歳―小学生）500円
※ アーク及び伊香保グリーン牧場セット券あり
（大人1800円、小人900円）

「自由な精神で鑑賞を」と語る原館長

原俊夫館長に聞く
「自由な精神で鑑賞を」

―群馬の地に誕生したハラ ミュージアム アークが、25年の歴史を刻みました。この間の経緯についてお聞きしたい。

原館長　縁があって先代がこの地を取得し、徐々に施設を整備してきました。本業は林業を主体とした会社で、森林を育て、国を富ませることが目的でしたが、ここは火山灰地で山として育てることは大変難しかった。そこで私の代になって、「心も体も育つ」ための土地の有効活用を考えたわけです。自然を楽しむ宿泊施設、ゴルフ場、そして自然牧場（伊香保グリーン牧場）と取り組み、その延長上に美術館（ハラ ミュージアム アーク）を開館させました。東京には、当時、原美術館もあったのですが、都心にあり、しかも邸宅を使った美術館でしたので、スペースなどさまざまな制限があったことも、ここに美術館を設けた理由のひとつ。しかし、最も大きな理由は、ここの自然です。自然の中で美術作品を鑑賞できる所は、そうはありませんから。

　ただ、うちのコレクションの傾向は、現代的なものでした。そこで建築家の磯崎新さんに相談し、自然との調和を基本に、どのような施設にしようか意見を出し合い、議論して2年くらいかかりました。その結果、平屋で木造、吹き抜けの中に大木の柱が立っているものになりました。いわゆるトップライトの展示室で、美術の専門家からは異論も出ましたが、磯崎さんと一緒に考え、生み出した施設です。とかく美術館の建物は、著名設計者の作品としての存在が前面に出てしまうケースも多いのですが、ここは、自然との調和を基準としたため、着工までに長い時間がかかりました。結果的には、それが成功し、今では、風景の中に馴染み、親しまれる出会いの場になっています。

―東京の原美術館との関係と、今後のアークについて。

原館長　東京との関係というよりは、私はここを独立した個性ある一つの美術館として位置づけています。周囲の自然環境や施設、展示作品が生み出す自由な世界、それがアークなのです。例えば、野外にあるオラファーエリアソンの作品（サンスペースフォー渋川）は、ここの障害物の無い広い敷地、そこに降り注ぐ太陽の光があるから、成り立ち、作品としての意味が生まれるのです。ここしかないのです。

　観海庵建設とともに設けられた開架式収蔵庫は、原美術館の貴重なコレクションを死蔵させず、いかに活用していこうかの視点から生まれました。ここは、研究者や美術専門家などの方々を対象に予約制で利用を受け付けています。

　美術館は企画展が大切という考えもありますが、私は美術館の命はコレクションだと信じています。コレクションは選ぶ人間の精神の問題です。ここのコレクションは最終的に私が決定したものが入っているので、その意味では、選定にブレが無いと思います。それが気に入ってくれる人もいれば、合わない人もいます。それでいいのです。現代美術は分かりにくい、苦手だという人がいますが、その人たちに私は、「この作品が好きですか」「嫌いですか」と問います。すると「気に入った」「どうも嫌だな」という反応が出てきます。それが原点です。ここの館内展示では、作品解説文もほとんどありません。作品の価値や解説を私たちが押し付けてはいけないからです。

　作家には、個々に考えがあり、個性や感性を反映して作品は生まれてきます。これが、重要な部分です。作品を通して作家の感性に触れてもらうことが大切なのです。

―まだアークを訪れたことのない人たちに、メッセージを。

原館長　美術館は感性発信の場であり、さまざまな出会いの場であると思います。ここで何を提供し、何を感じていただけるかが大切、その意味でも私たちの果たす役割は大きいと思っています。入館する方々は、先入観にとらわれず、精神を解き放って、心を開いて、自分の感性で作品を鑑賞してほしいですね。

◎館長おすすめスポット

　職務上は、館内外の現代美術作品と回答すべきなのでしょうが、私個人が最も気に入っているのは、観海庵に向かう開放型の渡り廊下部分ですね。そこから見える芝生広場や赤城山などの山々が、まるで絵のように美しく迎えてくれ、心癒されます＝**写真**。この場所で、しばし心を静め、東洋古美術を鑑賞に向かうと、一段と作品への思いも深まるのではないでしょうか。

桑　原　高　良
（くわばら　たかよし）

群馬ペンクラブ理事、群馬県文学会議会員。

1950年生まれ。74年に上毛新聞社入社。藤岡支局長、前橋支局長、編集局文化生活部長、出版局次長、文化情報誌「上州風」編集長、編集局次長などを経て太田支社長。館林シャトルおよび高崎タカタイの編集長。2011年3月退職。現在、中央カレッジグループ学園新聞編集長。著書に『二足の草鞋と本音人生―聞き書き大川栄二』『わがこころ語る上州人　塩原友子』『初代コロムビア・ローズ物語―人生は歌とともに』（いずれも上毛新聞社刊）。

上野東歌探訪（14）

北川和秀　一九五一年生。学習院大学大学院人文科学研究科国文学専攻博士課程修了。同大学助手を経て、一九八五年群馬県立女子大学文学部専任講師。現在は同大学教授。専門は上代文学。主な著書に『続日本紀宣命　校本・総索引』『群馬の万葉歌』など。

今回は上野国東歌・防人歌に用いられている東国特有の語や語法をとりあげる。いわば「東国方言」である。「方言」という語にはいくつか意味がある。ある地域でその土地特有の語形や発音の語が用いられているとき、それらの語を「方言」と呼ぶことがある。また、ある地域で話されている言語全体を指して「方言」と呼ぶこともある。後者の場合は、共通語や標準語と語形や発音が同じ語もすべて含めた全体が、その地域の「方言」ということになる。

万葉集に収められている大多数の歌は、大和国（現在の奈良県）を中心とした近畿地方の言葉でうたわれている。これに対して、東歌や防人歌の中には、中央の言葉とは明らかに異なる語形の語も用いられている。これらの語を一括して「東国方言」と呼ぶことにする。ただ、今回対象とするのは上野国の東歌・防人歌に登場する語のみである。だから正確には「上野国の歌に見える東国方言」とするべきところだが、長くなるので、便宜的に「東国方言」とした。すべて上野国で用いられた語であるから、「上野方言」と呼んでも支障はない。しかし、今回とりあげる語の中には、東国のかなり広い地域で使用されていたものも多いので、「東国方言」と呼ぶことにした。

今回は、この連載ですでに取り上げた歌、これから取り上げる歌を含めて、上野国の歌に見える「東国方言」を分類整理する。その結果は第二節で述べることにし、第一節ではまず、上野国東歌・防人歌のリストを載せる。傍線を引いた語が「東国方言」である。ページ数の関係で、今回は分類整理のみに留め、次号で他国の語も含めて検討する。また、上野国の歌には、このリストに載せた以外に、「東国方言」を含まない歌五首と、難解で意味の取りにくい部分を含む歌五首がある。それらについても、なぜ「東国方言」を含まないのか、難解な部分に「東国方言」は含まれるのか。それらについても考えてゆきたい。

一、「東国方言」を含む上野国東歌・防人歌のリスト

①日の暮に碓氷の山を越ゆる日は夫なのが袖もさやに振らしつ（3402）
②上毛野安蘇の真麻群かき抱き寝れど飽かぬを何どか吾がせむ（3404）
③上毛野乎度の多杼里が川路にも子らは逢はなも一人のみして（3405）
④上毛野小野の多杼里が安波治にも夫なは逢はなも見る人なしに（3405 或本歌）
⑤新田山嶺には着かなな吾によそり間なる子らしあやに愛しも（3408）
⑥伊香保ろの岨の榛原ねもころに将来をなかねそ現在し善かば（3410）
⑦上毛野久路保の嶺ろの葛葉がた愛しけ子らにいや離り来も（3412）
⑧利根川の川瀬も知らず直渡り波にあふのす逢へる君かも（3413）
⑨伊香保ろの八尺の井手に立つ虹の顕ろまでもさ寝をさ寝てば（3414）
⑩上毛野佐野田の苗のむら苗に事は定めつ今はいかにせも（3418）
⑪伊香保せよ奈可可中次下思ひどろ隈こそしつと忘れせなふも（3419）
⑫上毛野佐野の舟橋取り放し親は離くれど吾は離るがへ（3420）
⑬上毛野伊香保の嶺ろに降ろ雪の行き過ぎかてぬ妹が家のあたり（3423）
⑭上毛野阿蘇山葛野を広み延ひにしものをあぜか絶えせむ（3434）
⑮伊香保ろの岨の榛原吾が衣に着きよらしもよひたへと思へば（3435）
⑯しらとほふ小新田山の守る山の末枯れせな常葉にもがも（3436）
⑰難波道を行きて来までと吾妹子が着けし紐が緒絶えにけるかも（4404）
⑱吾が妹子がしぬひにせよと着けし紐糸になるとも吾は解かじとよ（4405）
⑲吾が家ろに行かも人もが草枕旅は苦しと告げ遣らまくも（4406）
⑳ひな曇り碓氷の坂を越えしだに妹が恋しく忘らえぬかも（4407）

二、上野国の歌に含まれる「東国方言」の分類

A. 東国特有の語

同時期の中央の語に対応する語が見出せないか、あっても用例のごく少ないもの、古語が東国に残ったと考えられるものなどをここに分類した。なお、【　】の下の数字は歌番号を示す。以下同じ。

【しだ】4407

「～する時」。万葉集に八例あり、内訳は未勘国東歌に六例、常陸国・上野国防人歌に各一例である。ただ、肥前国風土記にも一例あるので、古語が東国や九州に残ったものかもしれない。今、「帰りしな」「寝しな」などという時の「しな」の古形と考えられるが、「しな」は江戸時代まで下らないと用例が見つからない。東国で「しだ」から「しな」へと変化していたこの語が、政治の中心が江戸に移ったことで、表に出てきた可能性がある。

【わがいもこ】4405

「吾が妹子」は万葉集中、上野国防人歌の一例のみ。上代では一語の中で母音が連続することを嫌う傾向があったので、通常は wagaimoko の ai という母音連続の部分の a が落ちて、wagimoko（わぎもこ）という形になる。

【ひもがを】4404

中央語では「紐の緒」という。

【ろ】3409、3410、3435、4406（以上「伊香保ろ」）、3412、3423（以上「嶺ろ」）、4406（以上「家ろ」）

名詞に付く接尾辞で、親愛の情を表したり、語調を整える役割を果たす。記紀歌謡に見られる他は、東歌・防人歌や常陸国風土記など、用例は東国に集中している。上野国東歌には「伊香保ろ」が四例あり、他に「伊香保の嶺ろ」「久路保の嶺ろ」「家ろ」が各一例ある。「嶺ろ」は、万葉集では東歌にのみ一一例見える。内訳は、相模一例、上総二例、常陸三例、上野二例、未勘国三例である。「家ろ」は東歌の例のみで、武蔵・上野各一例である。

記紀歌謡に例があることからは、元来は古語なのであろう。東歌の分布は関東地方に偏っているので、奈良時代には関東方言だった可能性がある。

なお、この接尾辞が「子」に付いた「子ろ」という語が万葉集に二〇例あり、すべて東歌・防人歌の例である（常陸国東歌一例、相模国東歌三例、下野国東歌一例、未勘国東歌一四例、昔年防人歌一例）。国名不明の歌が多いが、判明している歌はやはり関東地方に限られている。これと同義と思われる「子ら」という語形もある。こちらは万葉集で広く使われており、五〇例ある。そのうち東歌・防人歌には一〇例（相模国東歌一例、上野国東歌四例、未勘国東歌三例、信濃国防人歌一例、昔年防人歌一例）で、他の四〇例は中央の歌である。上野国の歌は中央と同じ「子ら」が四例で、「子ろ」は見えない。東国方言（あるいは関東方言）の接尾辞の「ろ」は、上に付く語によっては、中央と同じ「ら」に変わりつつあったのかもしれない。用例が少ないので慎重であるべきだが、東国で「子ら」という形が見えるのは、信濃・上野・相模という、東国の中では比較的西部に位置する国である。東国の中でも中央に近いこれら諸国から、中央の影響を受け始めた可能性がある。

【せな】3402、3405 或本

「夫」は、女性から見て夫・恋人・男の兄弟など親しい男性を指す語で、中央でも広く使われているが、これに親愛の情を表す接尾辞の「な」が付いた「せな」は万葉集ではすべて東国の歌である（上野国東歌一例、未勘国東歌五例、武蔵国防人妻の歌三例、昔年防人歌二例）。これらの他に「せな」の下にさらに「な」が付いて「せなな」となったものが一例（未勘国東歌）、「の」が付いて「せなの」となったものが一例（上野国東歌）ある。

【よらし】3435

「よろし」の古形。上野国東歌に一例の他、古事記歌謡に見える。

【あぜ】3434

「なぜ」の意の東国方言。万葉集には東歌にのみ八例見える。内訳は相模・

上野各一例、未勘国歌六例である。「なぜ（naze）」の語頭の子音nが脱落したようにも見えるが、「なぜ」の用例は江戸時代まで降る。

【あど】3404

「いかに」の意の東国方言。前項「あぜ」に「と」が融合したものか、あるいは「など（nado）」の語頭の子音nが脱落したものか。万葉集には東歌にのみ七例見える。内訳は、武蔵・常陸・上野各一例、未勘国歌四例である。「あど」も「あぜ」も未勘国歌の例が多いが、国名が判明している国は全て関東地方である。

【がへ】3420

文末にあって反語の意を表わす助詞で、用例は東国の歌のみである。上野国東歌・未勘国東歌・昔年防人歌に各一例ずつ、計三例ある。

【なな】3408、3436

「～せずに」の意。二つ並んでいる「な」のうち上の「な」は打消の助動詞「ず」の古い未然形である。打消の助動詞「ず」の活用は「ず・ず・ず・ぬ・ね・（ざれ）」で、ズとナ行との二系列が混在しているが、上代にはナ系列に未然形のナ、連用形のニ、終止形のヌも用いられていた。

「なな」の下の「な」は助詞の「に」と同じ。従って、「なな」は「～せずに」の意となる。この「なな」は万葉集に全部で七例見える。内訳は上野国東歌・未勘国東歌・武蔵国防人歌に各二例、昔年防人歌一例である。

【なふ】3419

打消の助動詞で、「なは・○・なふ・なへ・なへ・○」と活用し、動詞の未然形に付く。「な」は、前項「なな」の上の「な」と同じく、打消の助動詞「ず」の古い未然形。「ふ」は継続の助動詞と考えられている。万葉集に一五例見える。内訳は武蔵国・常陸国・上野国・陸奥国の東歌に各一例、未勘国東歌一〇例、下野国防人歌一例である。室町時代に、打消表現は上方の「ぬ」（「行かぬ」など）に対して、関東では「ない」（「行かない」など）が用いられるようになるが、「なふ」はその古い形かとも言われる。

B．母音交替形

中央語と東国語とで母音が交替しているものをここに収めた。中央語の母音が変化して東国語になったものと、逆に東国語の方がいわば古語で、その母音が変化して中央語になったものと、両方が含まれるであろう。uからoへという変化の例が多い。

①u→o

【よき】3423

「雪」の東国方言形。「雪」は東歌に二例登場するなかで、上野国東歌の例は「よき」であるが、常陸国東歌では「ゆき」とあり、地域差が見られる。『日本国語大辞典　第二版』の「ゆき【雪】」の項には、〈なまり〉として日本各地の発音が示されているなかに、ヨキ〔栃木・石川・鳥取・島根〕、ヨギ〔津軽語彙・岩手・秋田・山形〕、ヨギコ〔津軽語彙〕という形が載っている。上野国東歌の「よき」はこれらと関係づけて考えられよう。

【あらはろ】3414

「顕（あらは）る」の連体形「顕（あらは）るる」の東国方言形。万葉集の用例は上野国東歌の一例のみ。四段活用動詞の連体形がオ列音になっている例として、上野国東歌に「降ろ雪」（三四二三番）、「逢ほしだ」（三四七八番）、相模国東歌に「引こ船」（三四三一番）、下総国防人歌に「行こ先」（四三八五番）、国名不明の東歌に「立（た）と月」（三四七六番）などがある。関東方言であろう。

【ふろ】3423

「降る」の東国方言形。前項と同様である。

【も】3418、4406

推量の助動詞「む」の東国方言形。

【なも】3405、3405或本

他者への希望を表す終助詞。「なむ」の古形。万葉集には、上野国東歌の二例（そのうち一例はもう一例の異伝）と額田王の歌とにのみ見られる。

②e→a

【いは】4406

「家」の東国方言形。関東地方の防人歌にのみ六例見える。内訳は、武蔵国防人歌二例、武蔵国防人の妻の歌・上野国防人歌・下野国防人歌・昔年防人歌に各一例ずつである。

【よか】3410

「良し」の古い未然形「良け」の東国方言形。上野国東歌にのみ一例。

③o→a

【ひたへ】3435

「一重」の東国方言形。上野国東歌にのみ一例見える。

④a→o

【のす】3413

「なす」の東国方言形で、「〜のように」。万葉集に「のす」は東国の歌にのみ八例ある。内訳は、上野国・下野国の東歌に各一例、未勘国東歌五例、武蔵国防人歌一例である。

⑤i→e

【かなしけ】3412

「愛し」の連体形「愛しき」の東国方言形。東国の歌にのみ八首九例ある。内訳は、上野国東歌一例、未勘国東歌六例、常陸国防人歌一首二例である。

⑥i→o

【のじ】3414

「虹」の東国方言形。連載の十二回目（『上州文化』一三三）でやや詳しく述べた。それを要約すると、「のじ」は江戸中期に東国の幼児語として見え、大正年間の邑楽郡の方言にあり、昭和四〇年代刊行の『日本言語地図』にも桐生市梅田町に見える。同地図には、群馬県周辺では新潟県・福島県・埼玉県・長野県の山間部にもこの語形が見えている。古くは関東一円に「のじ」という語形が広く分布していたのが、やがて「にじ」に圧迫されて、「のじ」は一部地域にのみ残存するに過ぎなくなったものと思われる。

C．子音交替形

中央語の「ち」が「し」に変化したものがある。

【はなし】3420

「放ち」の東国方言形。中央語のチがシに変化した例には、「あめつち（天地）」→「あめつし」下総国・昔年防人歌各一例、「いづち」→「いづし」未勘国東歌一例、「おもちち（母父）」→「おもしし」下野国防人歌二例、「かち（徒歩）」→「かし」武蔵国防人の妻の歌一例、「たち（立ち）」→「たし」常陸国東歌一例、武蔵国・常陸国・下野国防人歌各一例、「まくらたち（枕太刀）」→「まくらたし」武蔵国防人の妻の歌一例、「もち（持ち）」→「もし」武蔵国防人歌一例などがある。いずれも関東地方の例である。

D．意味・用法の相違

中央語も東国語も語形は同一ながら、意味・用法の違う語。

【かなし】3408、3412

どうしようもないほど痛切な感情を表す語で、「つらく切ない」という意味と、「かわいくてたまらない」という意味とがある。中央の歌では大部分が前者の意味であるのに対して、東国の歌では大部分が後者の意味である。

【あやに】3408

「言いようもなく」「むしょうに」という意の語。万葉集において、中央の歌では、挽歌を初めとする宮廷儀礼歌によく用いられ、「あやに畏し」や「あやに貴し」など荘厳な様子を形容するのに用いられているのに対し、東国の歌では強く異性を思う「あやに愛し」という用例が多い。

上野国の歌にみえる東国方言は以上である。次号で他地域の例と比較する。

第61回群馬県写真展覧会
9月23日（月・祝）～29日（日）9：00～17：00
（最終日は15：30）
群馬県庁県民ホール
各部門（自然・風景・ネイチャー・群馬の魅力・ビギナー・ヤング）の一般公募の入賞・入選作品及び委嘱作家の作品を展示します。

第59回群馬県大茶会
10月20日（日）10：00～15：00
伊勢崎市文化会館
県内茶道各流派が一堂に会し、お点前や呈茶を披露します。高校生のお点前も披露されます。

第64回群馬県華道展
10月29日(火)～11月1日(金)
前期／10月29日(火)～10月30日(水)
後期／10月31日(木)～11月　1日(金)
群馬県庁県民ホール
県内華道各流派が一堂に会し、いけばなの作品を展示します。

第64回群馬県美術展覧会
11月15日（金）～24日（日）
9：30～17：00（入館は16：30まで）
群馬県立近代美術館
日本画・洋画・彫刻・工芸各部門の一般公募の入賞・入選作品及び群馬県美術会会員・準会員の作品を展示します。

第64回群馬県書道展覧会
11月29日(金)～12月15日(日)
9：30～17：00(入館は16：30まで)
群馬県立近代美術館
漢字、かな、墨象、大字・詩文書、篆刻部門の一般公募の入賞・入選作品及び群馬県書道協会委員・委嘱作家の作品を展示します。

❖ 第３７回県民芸術祭参加事業 －新進演奏家支援事業－

♩♫♩♪♩ グリーンコンサート 2013 ♩♫♩♪♩
Opus1 “One Night Winter”

日　時　平成25年11月29日（金）18：30開演（18：00開場）
出演者　ピアノ：石原安輝恵、フルート：大野　愛
　　声　楽：町田絢乃
会　場　群馬県生涯学習センター・多目的ホール
　　（前橋市文京町2-20-22　027-224-5700）
入場料　無料（要電話予約）

石原安輝恵

大野　愛

町田絢乃

❖ 第37回県民芸術祭参加事業

オペラレクチャー
「知っておきたいオペラ 20 選」vol.7
俺たちの旅路、理想の人は何処に

ウーロン亭ちゃ太郎

日　時　平成25年11月30日（土）
　　15：00開演（14：30開場）
演　目　オッフェンバック／ホフマン物語
　　モーツァルト／ドン・ジョバンニ
出　演　構成・ナビゲーター／ウーロン亭ちゃ太郎
　　ソプラノ／鈴木麻里子
　　ちゃ太郎・オペラ・カンパニー
会　場　ベイシア文化ホール 小ホール
　　（前橋市日吉町1-10-1 027-232-1111）
入場料　全席自由1,000円（未就学児入場不可）

鈴木麻里子

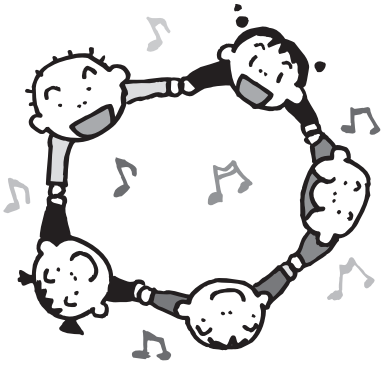
❖ 第３７回県民芸術祭参加事業　**メディア芸術推進事業**

第１回　GUNMA マンガ・アニメフェスタ

日　時　平成２６年２月８日(土)～11日(火・祝)　10：00～17：00
会　場　ベイシア文化ホール（展示室・小ホール　他）

☆☆☆☆☆**作品募集**☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

部　門　マンガ部門、アニメ部門
応募期間　平成２５年１０月１日(火)～１１月３０日(土)
　　※　募集内容等の詳細は、事業団ＨＰを確認ください。
賞　　大賞１点(賞状・賞金１０万円)
　　優秀賞２点(賞状・賞金５万円)
　　奨励賞６点(賞状・賞金３万円)
　　※　小・中学生が入賞した場合は賞金ではなく図書カードになります。



地域文化をつなぐ

長野原町文化協会　副会長
長野原文化会　会長
長谷川　誠

長野原文化会（獅子舞）の歴史

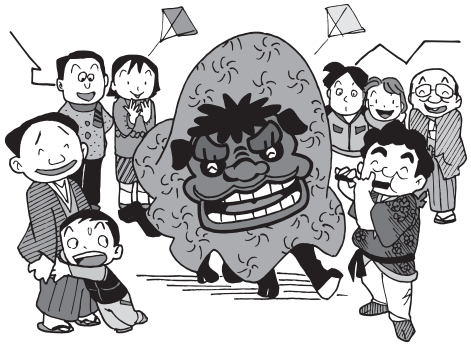
長野原には大正末期頃、東吾妻町大柏木の大神楽の演技が伝わったと言われている。当時は青年有志が毎戸を悪魔払いして巡回したが、獅子頭は「ショウギ」と呼ばれるざるの一種を使って頭部を作り、紙を張り麻をすいて髪にし、布を付けて模造したと言う。

昭和十二年の日中戦争の勃発によって戦時色が濃厚となり、十四年頃には活動休止となった。戦後の二十二年、敗戦の影響は大きく地域住民からは笑顔が消えていた。この状況から獅子舞復活の気運が高まったが、一層の技量向上を計るため、前橋市在住で大道芸一座を率いていた小虎師匠の門を叩き招聘した。十人の有志が二ヵ月に及び連日の手ほどきを受けたのは、ひとえに地域住民の笑顔を取り戻したい一念があったからでしょう。

この時から「長野原文化会」を名乗るようになりました。昭和三十年代初頭からは毎年四月二十五日に執行される長野原諏訪神社の春祭りに、神事の一環として幣束を使う舞を奉納している。又、毎戸を巡回して悪魔払いを行い火防（ひぶせ）の御札を配布するようになり、定例行事となっている。その他官公庁施設の落成式や住宅の新築祝には幣束、鈴、剣を使っての火防や四方固めと言われている悪魔払いの舞を奉納したり、結婚披露宴や舞台での寿獅子（ことぶきじし）と言われる獅子舞とひょっとこ踊り及び両者がからんだ狂言を演じています。

「長野原文化会」の黎明期支えてくれた有志十人も存命者はひとりになってしまいました。

時の流れと共に今や当初の役割は終えていますが、地域に残る郷土芸能として後世に伝承していきたいと思っています。



アートの役割

坂本 敏

「私は抽象的な絵を描いている作家です。」と、自己紹介するときにこんな説明から入ります。自分で言いながら、いったい抽象画ってなんだろう、具象画とはなんだろうという疑問が湧いてきます。抽象画はよく解らないということを耳にします。このことをよく考えてみると、描かれているものが何だかわからないということが理解できました。たとえば、花や山といったものなら見たことがあるので、描かれているものが何だか解る。しかし、花や山の絵ならほんとうに解るのかという疑問にも突き当たります。とは言うものの、「抽象画を描く」と言えば、「なんとなく解らない絵を描いているのだな」ということを理解してもらえるということがわかりました。

作家の目を通して描かれたものは、そのフィルターを通したことで、すでに抽象化されているという意味では、すべて抽象画であるし、作家の内面を具体的に映し出すものだと考えれば具象画ということができるように思われます。具体的なものが描かれているのが具象画、わけの解らないものが描かれているのが抽象画、という概念は絵を説明するきっかけになるという思いはありますが、描く立場からすると、抽象、具象と分ける事にはあまり意味がないなどということを考えながら描いています。ただ、わけの解らないものだから、逆に説明責任があるという気がしています。作家とその作品を閲覧する人との交流を、言葉を通してより密接にできるという期待もしています。

私の絵について少々説明すると、私は描く時に下描きをしますが、それには縛られないようにしています。途中で内容が変化することを「良し」として制作しています。そのとき描かれた絵の具のにじみであったり、勢いであったり、擦れであったり、これらの要素によって絵柄がどんどん変化していきます。その変化を楽しんでいます。そこに流れる時間の存在を実感します。私が描く時のテーマとして「時間と空間」という概念があります。たとえば、コンサートでは同じ空間において、同じ一定の時間を共有します。展覧会では同じ空間を共有し、時間の制限なく作品との対話ができますが、同一時間、同一空間内でコンサートのような共有時間はありません。どちらが良いかという問題ではなく、それぞれに「時間と空間」という問題につきあたります。

社会とアートの関わり

社会とアートの関わりということを考えた時、どこからそのことが始まるのでしょう。旧態依然とした制作のスタイルをとっている私は、制作をしている時間において人との関わりを拒否しています。制作しているところを第三者に観察されたくない、という気持ちは今でも延々と続いています。この時点では、社会との関わりをむしろ拒絶していると言えるでしょう。

展覧会など発表の場を通して、制作物を露出し、作家と閲覧者が知り合う、そんなところから作品や作家が社会との関わりを持ち始めます。その作品が解らないと思ったとしても、すばらしいと感じたとしても、そこでは、見る側と作品・作者との関わりができています。このことが社会とアートにおける関わりの入口と考えます。最近のアートでは、この「社会との関わり」ということをテーマに制作している作家も多いように思われます。パフォーマンス自体が社会との関わりであり作品である、といった具合に。

表現と作品化

作家が制作している過程を〈表現や行為〉とし、それ以後の過程を〈作品化〉とします。〈表現や行為〉と〈作品化〉することを分けて考えてみます。たとえば、美術館において、学芸員が閲覧者にアートを楽しんでもらうように、意図をもって展示をしていきます。学芸員にとってプロデュースという機能が重要になります。作家にとってもこのプロデュースという機能が〈表現や行為〉を〈作品化〉するということなのだと考えます。この〈作品化〉することが、社会と関わっていく上で重要ではないかと考えています。

表現者としての意識が強い人、作品化する意識が強い人、それぞれがあるのだと思います。ただ、一作家のなかにもこの二つの要素は混在しており、自分の制作スタイルで言えば、制作して額を付けるまでは第三者の介入を拒否し〈表現〉していますが、その後展示・発表するときには〈作品化〉が始まります。逆に〈作品化〉〈プロデュース〉が先行して、〈表現〉が始まる場合もあります。

これまでの芸術作品という概念からは、現在の作家の〈作品化〉された活動というものは、離れてきていると考えています。すぐれた作品は、時代の先駆的要素を持ち合わせていると

も言われます。現在においては進化し続けるメディアの存在などを鑑みると、作家の意識の中にも「人にどのようにして伝えるか」ということ自体が〈表現〉であったり〈行為〉であったりする制作スタイルがあるように思われます。そこには、デジタル化された作品であったり、メディアを通すパフォーマンス自体を〈表現や行為〉として〈作品化〉しているものであったり、という事が起っています。インターネットを介在させた表現は、時間や空間の縛りというものを介在させない要素を持ち合わせています。と言うよりは、「時間と空間」の縛りが非常に緩いということなのかもしれません。そこには、私がテーマとしていた「時間と空間」という概念では語れない、「時間と空間」という概念以外の次元での〈表現〉や〈作品化〉を感じます。ただ「時間と空間」という概念があるからこそ、その概念から脱却する「道具」として「メディア」を利用するという考え方にもなるように思えてなりません。

その時代のメディアの違いにも対応して〈作品化〉している〈表現・行為〉は、今までの芸術作品という括りで語れなくなっている現実があり、そこには意識の共有という〈作品化〉が必要となります。そこには、単に多様性という言葉でまとめるのではなく、個々の作品を通して、同じ立ち位置になって、考えなくてはならないという気がしています。〈行為〉すること自体が〈表現〉であり〈作品化〉である場合があります。たとえば「演じる」ということそのものをアートと考えたとします。それは、肉体そのものが〈表現〉であったり、単に肉体は〈表現〉をする道具であったり、道具が筆とカンバスという括りでは語れない〈作品化〉がそこには存在します。そのことに私自身戸惑うことがあります。

アートの役割とはいったい何でしょう。

アートにおける社会性

アートは単に展覧会場の中だけで完結するものではなくなっています。前項で述べたメディアを通したアートも含め、〈作品化〉されたものが美術館の外に出て市民と交流することが始まっています。そこからアートと社会との関わりをより密なものにしていく・・・そんな状況を作り出すことも社会貢献のひとつではないかと考えます。アートが美術館から外に出ていくということは、単に作品を外で展示するということではなく、作家の意図や思考を外に出して、共有してみるということではないでしょうか。その作品自体が理解できるか、できないかということも含め、まずその考え〈作品〉を露出してもらい、同感できるか、できないか、ではどんなことが表現したいのかなど、さまざまな問題意識を共有していくことが大切なのかと考えます。作家の意図や思考を社会と共有するということで、新しい事象が生まれ、人との関わりができ、そこから社会性がより明確になっていくように思われます。

アートの投げかける問題提起を考えつつ、この〈作品化＝プロデュース〉が社会とアートを結び付ける蝶番の役割を果たしているように感じています。それには作家自身が社会との関わりを拒絶しないで説明責任を果たし、造る側、見る側が向き合う姿勢が必要です。シェアという言葉を最近よく耳にします。共有するとか分配するという意味で使われるようですが、アートにおいても意識のシェアということが課題となっているように思えてなりません。現在、前橋市においても「アーツ前橋」という文化施設が十月にオープン予定です。「アーツ前橋」も単に施設という機能だけではなく、〈表現〉者や市民をまきこんだ〈作品化〉のできる環境となることを期待しております。そして意識のシェアによってアートが社会貢献に繋がっていくような環境を作り出したいものです。

坂本　敏　画歴

1982 群馬青年美術展／'86 奨励賞（～ 89）
1983 モダンアート協会展／90 奨励賞　91 部門賞
　　93 優秀賞　安田火災美術財団奨励賞（～ 2001）
1983 群馬県美術展／87 知事賞　91 文部大臣奨励賞
　　92 近代美術館奨励賞
1985 チキンストップ展（～ 89）
1986 カンコ堂創作展（～ 95）
　　モダンアート協会明日への展望展（87、90 ～）
1988 現代美術のアンソロジー展
1988 ニュージェネレーションＡＲＴ展
　　第 1 回群馬県展知事賞作家展
1989 前橋市民展
1991 二人展（アートミュージアム赤城）
　　第 25 回現代美術選抜展（文化庁）
1992 個展（銀座スルガ台画廊）
1993 アヴァンギャルディア展（94、95 アートミュージアム赤城）
1994 安田火災美術財団奨励賞展（東郷青児美術館）
1995 アヴァンギャルディア東京展（銀座井上画廊）
　　クロスセクション「断面」95 展（高崎市民ギャラリー）
1996 個展（銀座スルガ台画廊）
　　がんばろう神戸展（高崎市）
1997、2002 CAF 展（埼玉県立美術館）
現　在 群馬県美術会理事　前橋市民展運営委員

自然環境調査からみた群馬の湿原と植物

茂林寺沼湿原

群馬県尾瀬保護専門委員　片　野　光　一

邑楽・館林地域は、かつて広大な低湿地が広がり、水郷と呼ばれるにふさわしい水生植物の宝庫であった。しかし、埋立や河川改修、汚水の流入などにより、多くの湿地と地域を特徴づける植物が失われていった。このような中で、茂林寺沼湿原（海抜約 17m、面積約 10ha）は、茂林寺沼とともに県の天然記念物に指定（1960 年、約 5.6ha）されていたこともあり、低地の低層湿原本来の生態系を比較的よく残す県内で唯一の場所となった。

茂林寺沼及び茂林寺沼湿原は、邑楽台地を開削して流れる茂林寺川の流域に広がる谷底平野に形成されている。館林市教育委員会の調査（辻誠一郎ほか（1986）茂林寺沼及び低地湿原調査報告書第２集）によって、湿原に堆積する泥炭（泥炭質泥・シルト・粘土などを含む）が最も厚い部分で 874cm あることや別地点の最下部の泥炭の放射性炭素年代が 4,160±140y.B.P（縄文時代中期末葉から後期初頭に相当）であることがわかっており、採取された泥炭中の花粉化石や珪藻化石、植物化石の分析から本地域の自然環境の変遷が明らかにされている。

私達が植生調査を行った 1983 年～ 1985 年当時、湿原の多くを低層湿原植生のカサスゲ群落が占め、地表面まで水のしみ出す湿性な立地にカサスゲが優占し、高さ 3m に達するヨシのほかヌマトラノオ、クサレダマなどが生育していた。また、やや乾性な立地には小規模ではあるが中間湿原植生のヌマガヤ群落が、岸辺沿いなどの冠水する立地には低層湿原植生のウキヤガラ－マコモ群落がなどがみられるほか、沼中にはハス群落やコウホネ群落、周辺部には湿性林のハンノキ林やアカメヤナギ林が分布するなど、湿原の植生は良好に保たれていた。

茂林寺沼湿原

茂林寺沼にわずかに残るコウホネ

ところが最近、湿原を潤す水の不足という湿原自体の消失にもつながりかねない問題が顕在化してきた。これは、湿原周辺部の都市化の進行に起因する。昭和の末、湿原に流れ込む茂林寺川の水質汚濁が進み、湿原や沼の動植物に大きな影響を与えるようになった。このため、茂林寺川の流路を変えて（1991 年供用開始）湿原に汚水が入らないようにするとともに、地下水を汲み上げて湿原を潤すようにした。この工事により、湿原や沼の環境は良好になったように思われた。しかし、汲み上げる水量が流入していた茂林寺川の水量を大きく下回ったため、年月を経るにつれて湿原の地下水位が下がっていった。現時点では少なくても数 10cm 程度地下水位が低下し（本来、低層湿原の地下水位は少なくても地表面以上である）、湿原の乾燥化や泥炭の収縮・分解が進行している。調査中であるが、春期のカサスゲ群落では今までみられなかったタマミゾイチゴツナギがカサスゲより優占するなど、湿原のほとんどの群落で種組成に変化がみられる。さらに、サワギキョウやハリミズゴケなどの消失、セイタカアワダチソウやカナムグラなどのつる性植物の繁茂など変化を挙げればきりがない。館林市をはじめとして、対応策を検討中であるが、本来湿原に流入していた水量の確保が最優先課題である。

レストラン　伊万利ダイン
前橋市文京町 2-20-22 群馬県生涯学習センター別館 TEL：027-224-1693

群馬県・伊香保温泉

HOTEL 天坊

政府登録国際観光旅館
ロイヤルチェーンホテル加盟店
群馬県渋川市伊香保町396-20
予約直通 Tel.0279-72-4489

東京営業所 東京都台東区東上野6-10-7金子ハイツ503 〒110-0015
Tel. 03-3843-0083

埼玉営業所 埼玉県さいたま市中央区下落合4-23-10-101 〒338-0002
Tel. 048-856-1660

●料理茶屋 湯の花亭 上州四季の懐石

春 夏 秋 冬

味わいの旅

——四つの食事処で料理が選べる

想いを"かたち"に。

株式会社 藤田ビジネスプロモーター

前橋市問屋町 1-1-1 TEL 027-251-4455 (代) FAX 027-253-0057
http://fujita-biz.co.jp/ E-mail fbp-npo.spirit@k5.dion.ne.jp

戸建からレジデンス ペットとくらす アパ|マン

大小店舗オフィス 倉庫工場 店舗|事務所

個人から法人 建物|土地

不動産有効利用 不動産活用

ローンのお申し込みは、群馬銀行へ！

住宅ローン「金利選択プラン」
選べる魅力で快適な住まいづくり

マイカーローン
自動車の購入・車検等に

教育ローン「仕送り名人」
入学金・授業料・仕送り費用に

住宅リフォームローン
ご自宅の増改築・補修・改修費用に

「ナイスサポートカード」カードローン
ホームページ・モバイルサイトからもお申込可能

フリーローン「おまとめ太郎」
ご返済をまとめて一本化

詳しくは窓口または、下記までお問い合わせください。
群馬銀行ダイレクトセンター
0120-139138 受付時間 9:00～20:00
土・日・祝休日、12/31～1/3は除きます。

あなたの夢、応援します。
群馬銀行
http://www.gunmabank.co.jp/

編集後記

◇この夏、宮崎駿監督の新作映画が、群馬にちょとしたにぎわいをもたらした。それは、主人公の人物像に藤岡市出身の航空技術者、堀越二郎さんの要素を取り入れたからだ。
この作品は、ベネチア国際映画祭でも上映されるということで、世界的な注目度もあり、さらなる盛り上がりも期待されている。
そんな中、この映画の音楽を担当されている久石譲さんが、11月に前橋でコンサートを開催する。
群馬交響楽団との初めてのコラボレーション企画だ。オーケストラの演奏と共に、芸術の秋を満喫して頂こう。（NH）

◇本誌希望の方は、送料（140円×希望回数分の切手）を添えてお申し込み下さい。また、ご要望ご意見等もお寄せください。

題字・群馬県知事　大澤正明

ⓒ 公益財団法人 群馬県教育文化事業団
（本誌からの無断転載、コピーを禁じます。）

上州文化 ●第135号 ●平成25年8月25日発行（年4回発行）●発行人 福島金夫
●発行所 〒371-0801 前橋市文京町二丁目20-22 公益財団法人 群馬県教育文化事業団
●電話 027-224-3960 ● URL http://www. gunmabunkazigyodan.or.jp/
●印刷 ㈱開文社印刷所 前橋市大手町三丁目18-7